



直五郎さんの潜水機

昔、平原の指小路に、直五郎さんという、人がいました。

直五郎さんが、30過ぎの頃のことです。外国の船が、美々津海岸の沖で遭難し、沈没してしまいました。ところがその船には、多くの財宝が積んでありましたが、船と共に、海底深く沈んでしまったと、いうのです。

直五郎さんは、その話を耳にし、何とかして、長時間人間を海底にもぐらせて沈んだ財宝を引き上げたいと思い、懸命に潜水装置の考案にとりくみある考えを、思いつきました。

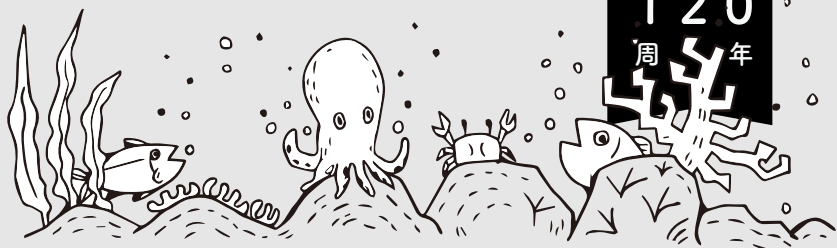
それは、透明な油紙で、大きな袋を作り、上部は水圧に耐えるように固くし、その袋を、頭からすっぽりかぶり、首の処をひもでくくり、水の浸入を防ぎ、水の中に飛び込ませ、上の方から数人の者が長い竹竿で、浮かび上らぬ様に押しつける仕組みでした。

いよいよ準備もとのい、実行にうつす日が来ました。場所は、平原下の御月の池で水中に潜る人、上から押さえる人というように、役割もきまりました。

ところが、実験が始まってからが大変でした。飛び込んで間もなく、いかに油紙でも、水にぬれては、ひとたまりもありません。油紙はベトベトになり、口とわず鼻といわず顔一面に、ベッタリと吸いついてし

くさくさ





まいりました。その上首のところから、水が浸入し、全
く息も出来ず、声も出せないのです、大変な苦しみでした。
それに浮き上がろうと、水底でいくらかもがいても、
陸上の押し沈め役の、竹竿の繰つりが巧みで、浮き上
がる事が出来ず、池の底で濁り水をガブガブ飲み込ん
で、全く半狂乱の状態でした。

やつとのもことで、水の底から抜け出した、半死半生
の男は、幸いにも、この世の風を胸一ぱい吸いこん
で元気をとりもどし、事の次第を、こまごまと話した
ということです。

この話を聞いた村人達は、直五郎さんの潜水法の構
想は、いかにも滑けいたが、その

発想は、まことに尊いと彼の

創意を賞讃したということ

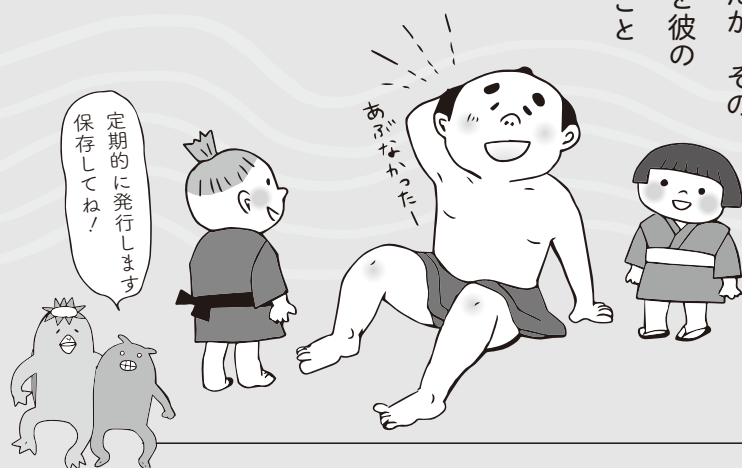
です。

(語り手不詳)



たかしんホール

高鍋町体育館



定期的に発行します
保存してね!

あぶなかつた

上江小学校(高鍋西小学校)の思い出

現在の高鍋西小学校を、上江尋常高
等小学校といいました。大正時代の頃
のことです。

校舎は、東西に長い木造、瓦葺きの
校舎が2棟あり、教室の出入口は腰高
の障子戸、窓も障子で、外がわは雨戸
をしめるようにしてありました。運動
場は校舎の北東にありましたが、現在
プールがあるところ付近には畑があ
り、野菜をつくっていました。又、校
舎の南東の方に、奉安殿といって、天
皇・皇后両陛下のお写真を納める建物
がありました。

上江小学校には分教場が2つあつ
て、市の山分教場(2年まで)と持田
分教場(4年まで)が設けられていま
した。本校には6年生までの小学校と、
小学校を卒業して上級の勉強をする希
望の者のために、高等科(2年間)が
設けられていましたし、更に勉強した
い者は、中等教育(当時は農学校・中
学校・女学校)を自由に受けたもので
した。

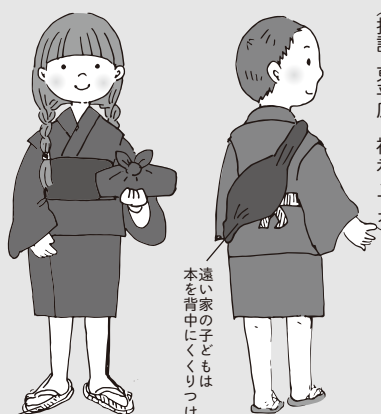
学校に通う服装は、和服(着物)わ
ら草履でしたが、5年生以上の生徒は
袴を着けることになっていました。朝
礼は毎朝ありましたが、夏は強い陽射
しに照りつけられて、気をつけの姿勢
で動けば叱られるし、きついのをじつ
と我慢しました。冬は冬で寒さのため
に素足が痛く、手がかじかんでのばさ
ねばならない指ものびず、叱られたこ
ともずいぶんありました。その当時は
本当にきびしい教育が行われたもので

す。特に5年生以上になると、男子は
小さい「かばん」を背に負い、小銃を
もって軍事教練、女子は裁縫教室で裁
縫、礼儀作法等女らしく、又、家庭に
入っての実用的な事はばかりで花嫁学校
という様な教育でした。(中略)

最後に祝祭日のことですが、前日に
なると教室をしきつてあつた大きな板
戸をはずし、教室を3つか4つ程合わ
せた会場をつくるのです。そして、天
皇・皇后のお写真をおまつりして、厳
かに式が行われたのです。当日の朝、
式が始まる前に奉安殿よりお写真を式
場にうつされる時、校長先生と首席の
先生がマスクをかけられ、白手袋され
て、うやうやしくかけて通られると、
私達は姿勢を正し最敬礼して通過を
待ったものでした。

もう1つ、お正月に新年の式終了後、
三々五々各自自作の名刺を持って先生
方のお家を一軒、一軒、名刺を置いて
まわったことは、ほんとに楽しい思い
出の一つです。

(採話 東平原 福永ミサオ)



遠い家の子どもは
本を背中にくくりつけた

わら草履

「たかなべ 伝・伝 Returns」の発行には、まいづるカード会のご協力を頂いています。